

■ 建築概要

大学の機能だけではなく、町づくりの核となることが期待されたため、敷地境界に門や塀を設置せず、敷地全体が緑豊かで開放的なランドスケープとして計画された。また、地域に開かれたキャンパスとして、地域連携を実現するための開放空間である「アゴラ」と「プラザ」が計画された。

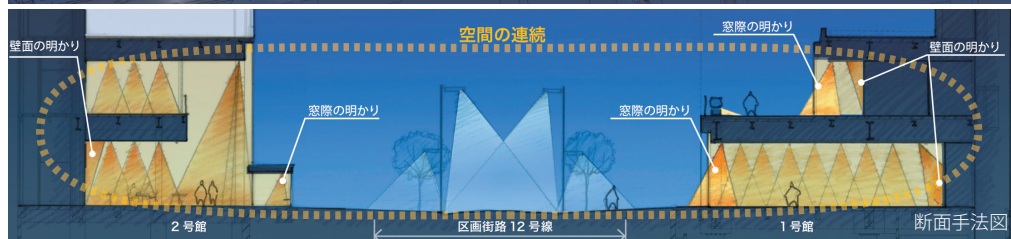
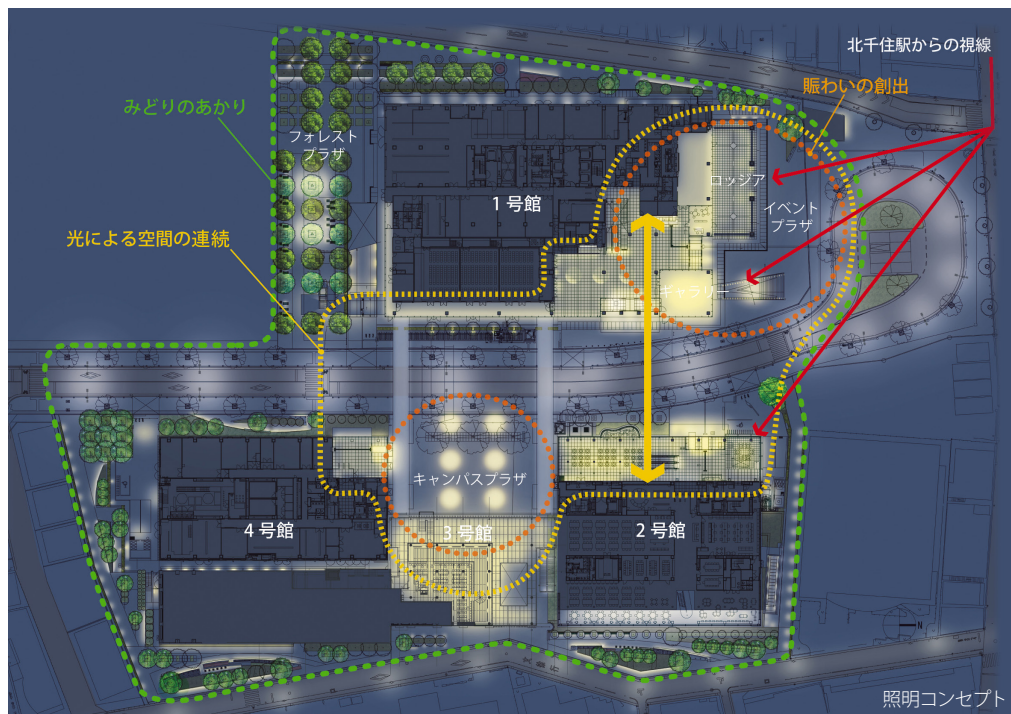
「アゴラ」

プラザと公道により繋がる建築低層部のパブリックゾーン
(ロτζィア、ギャラリー、エントランスホールなど)

「プラザ」

地域に開放された屋外空間
(キャンパスプラザ、フォレストプラザ、イベントプラザ)

- 敷地面積 - 19960.93㎡
- 建築面積 - 11136.13㎡
- 延床面積 - 72746.94㎡
- 階数 - 1号館 / 地下1階地上14階
2号館 / 地下1階地上10階
3号館 / 地上5階
4号館 / 地上10階



■ 照明計画

学生と街の人々が、昼間と同様に夜間も安心して利用できる光環境を計画することで、キャンパス内で多様な活動が生まれ、表情豊かな街並みの風景を作り出している。

「アゴラの照明」

建築低層部の壁面を明るくすることで奥行き感を創り、キャンパスに一体感を持たせた。各棟エントランスホール・通路の窓際に照明器具を配置し、周囲の外部空間の明かりとしても利用することで建築とランドスケープの繋がりをより一層強めている。

「プラザの照明」

フレキシビリティ確保のためポール灯や庭園灯などの灯具を設置せず、屋上の投光器から降り注ぐ明かりによって、空間の賑わいと広がりを出した。

「グリーンファニチュアの明かり」

植栽とファニチュアを一体化したものに照明器具を組み込むことで、照明器具の存在を感じさせない昼間の風景を作り出した。陽が暮れると暖かな光を発する照明器具として機能する。敷地境界に塀がないため、足元の明かりや視線の先に見える照らされた樹木は、周辺環境の向上にも貢献している。

「大学を象徴する明かり」

校内にある2層吹き抜けの学内交流スペースでは、3原色の天井を照らすことで大学のアクティビティを感じさせるファサードを作り出した。また、昼間同様に遠望からも印象的な姿となる様に、屋上の外壁照明やルーフトップに沿ったダブルスキャンガラスダクトにライトアップを施した。

受賞者名 横 文彦 (横総合計画事務所)
澤田 隆一 (SLDA)
中村 友香 (SLDA)

統括・意匠 横総合計画事務所
ランドスケープ オンサイト計画設計事務所
構造・設備 日建設計
照明 SLDA



1号館俯瞰 / 窓際の明かりがランドスケープの明かりとして寄与する。



2、3号館俯瞰 / 屋上からの投光照明で照らされたキャンパスプラザ。



ランドスケープ/グリーンファニチュアの明かり。屋内の明かりと樹木ライトアップが明るさ感と奥行きをつくる。